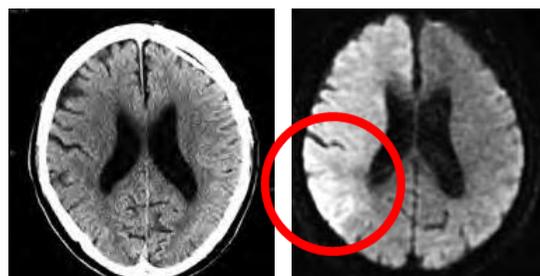


脳血管障害の画像診断

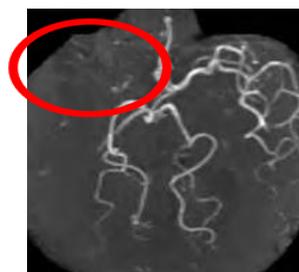
脳血管障害とは脳の血管の異常による病気の総称で、**脳梗塞**、**脳出血**、**くも膜下出血**、**動脈瘤**など頻度が高く、かつ重篤な障害をきたすことのある疾患が多く含まれています。脳は体重の3%ほどの重さですが、全血流の20%を使う臓器です。そのため血管の異常による疾患が起きやすいといえます。

脳血管障害の診断や治療方針の決定には、画像診断、とくにCTやMRIが必須です。

脳梗塞は脳を栄養する血管が詰まることによって、その血管が栄養していた領域に壊死が起こります。脳には場所により機能が異なるという機能局在があるため、障害された部位により、それに対応した機能の障害が起きます。たとえば、左中大脳動脈が詰まると、言語障害や右手の運動障害が起きます。いくつか画像を紹介します。



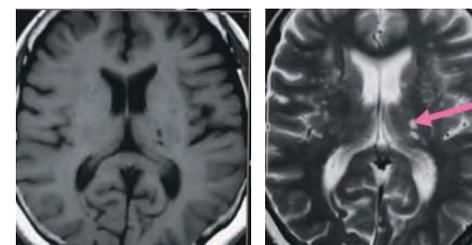
左のCTでは所見はみられませんが、右のMRIでは白く映っているところが超急性期の梗塞に相当します。このようにMRIではCTより早い時期に病巣を見つけることができます。



MRAでは脳を栄養する血管をみることができます。この症例は、右内頸動脈の閉塞が考えられます。



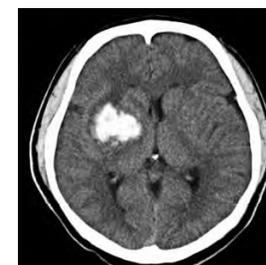
オアシス第一病院
足立育子



左大脳に小さな円形の病変がみられ、無症候性梗塞（ラクナ梗塞）のMRIです。

無症候性梗塞とは、症状のない梗塞のことで、MRIでよく描出されます。無症候性梗塞のある場合は、症候性梗塞の発生頻度が4倍ほど上がるという結果が出ています。

脳出血は、脳血管の破綻・破裂により脳実質内に出血を来たした状態です。多くは高血圧が原因です。脳出血は1975年までは脳卒中で死亡する原因の第一位でしたが、高血圧管理などにより急速に減少し、2割程度となっています。脳出血の画像検査は、急性期では、まずCTが行われます。



右大脳基底核に白く映っているのが出血です。周囲の圧排を伴っています。典型的な場合はCTのみでよいのですが、腫瘍や血管奇形など他の疾患を否定するためMRIを追加検査することもあります。

以上、脳血管障害の代表的疾患の脳梗塞と脳出血について紹介しました。CTやMRIで早期に診断すれば、早期に治療も開始することができます。その結果、症状を軽く抑えたり、後遺症を残さなくて済むこともあります。しゃべりにくさや頭痛などの症状が出たら、すぐに病院を受診し、診察を受けて、検査を受けることをお勧めします。

部署紹介・その20 ひまわりデイサービスセンター

こんにちは。ひまわりデイサービスセンターです。当デイサービスでは、真心のこもったサービスをモットーに、利用者さんとのコミュニケーションを大切に、最近物忘れが多くなった方や日頃人とふれ合う事が少ない方々が一人一人個人に合った活動を行い、元気に明るく過ごせるよう、職員一丸となって支援させていただいています。

アットホームな雰囲気のあるデイサービスを是非覗きにきて下さい。随時、見学・体験を受け付けています。

主任 井上忠昭



お問い合わせ
医療法人善昭会

オアシス第一病院

〒870-0103 大分市東鶴崎3丁目3-19

電話 097-527-2211 Fax 097-522-0511

